

鶴田ダム

ダム見学と川内川流域での広域観光化の取組

- 実施主体：九州地方整備局鶴田ダム管理支所 ■ダム活用箇所：監査廊、点検放流見学
- ダム所在地：鹿児島県さつま町
- ダム管理者：九州地方整備局鶴田ダム管理所 ■ダム完成年度：1966（昭和 41）年
- ダム再開発完成年度：2018(平成 30) 年 ■ダム形態：重力式コンクリートダム

■取り組みのポイント

- ①ダム見学について団体向け6コース、個人向け5コースの見学会・ツアーを企画検討。2020（令和 2）年度は川内川流域を巡るモニターツアー等、4ツアーを実施。事業主体は、地域 DMO である、（株）薩摩川内市観光物産協会（薩摩川内市）。
- ②流域の活性化を目指す、「川内川水系かわまちづくり推進協議会・かわまちづくり観光振興部会」を設置。

■取り組みの概要

- ・ダム見学の来訪者を団体向けと個人向けに分けてカテゴリー化。各々に異なるガイド内容を検討している。
- ・流域の複数の観光地を結ぶつけることで流域に宿泊してもらうなど、流域全体での魅力向上を目指している。ダムも観光資源として捉え、2020（令和 2）年度に点検放流を絡め、上記のカテゴリーを組み合わせ、有料モニターツアーをバス 1 台・30 名を対象に実施。焼酎の 1 年間貯蔵権利付きとすることで、翌年度来訪するしつこくを組み込んだ。
- ・モニターツアーは、旅行業の免許がある地域 DMO が主催し、関係機関が連携・協力してツアーを実施。
- ・上記以外の流域の取り組みとして、かわまちづくり観光振興部会が流域のスタンプラリーを実施。



ダムの機能を維持しながら改造。
（さつま町内）



曾木の滝。「東洋のナイアガラ」とも呼ばれ、毎年約 30 万人が訪れる観光拠点。（伊佐市内）



曾木発電所遺構。水位変動により出現する。NPO が舟を運航して見学ツアーを実施。（伊佐市内）

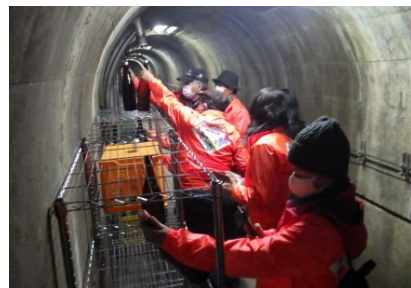
【2020 年モニターツアーの実施状況】



一般開放していない箇所でのダムのみずしぶきを浴びながらの放流見学



ツアーとは別に、放流を間近に見ることができるコンジット広場を一般開放し、令和 2 年度は約 800 名が来訪。同時に「ピクニックマーケット」を実施。



焼酎貯蔵

出典：鶴田ダム管理所提供（下段）

■人・組織

- ・(株) 薩摩川内市観光物産協会：旅行業免許を持つ地域 DMO。薩摩川内市の他、商工会議所、商工会、地元金融機関、民間企業等が出資。観光旅行事業、物産、放送、施設、中心市街地等の事業を担う。
- ・川内川水系かわまちづくり推進協議会・かわまちづくり観光振興部会：自治体別に行っていた河川環境整備を、流域一帯でのかわまちづくりを行い、地域の活性化に資することを目的に「川内川水系かわまちづくり推進協議会（構成機関：薩摩川内市、さつま町、伊佐市、湧水町、えびの市、鹿児島県、宮崎県及び国）を2016（平成28）9年3月設立。かわまちづくりを中心とした川内川流域の観光振興に取り組み、交流人口の増加を目指す「かわまちづくり観光振興部会」を2017（平成29）年6月に設立。専用HP：<https://kawamachi.jp/>

■しくみ

〔ダム見学の来訪者のカテゴリー化による対応戦略〕

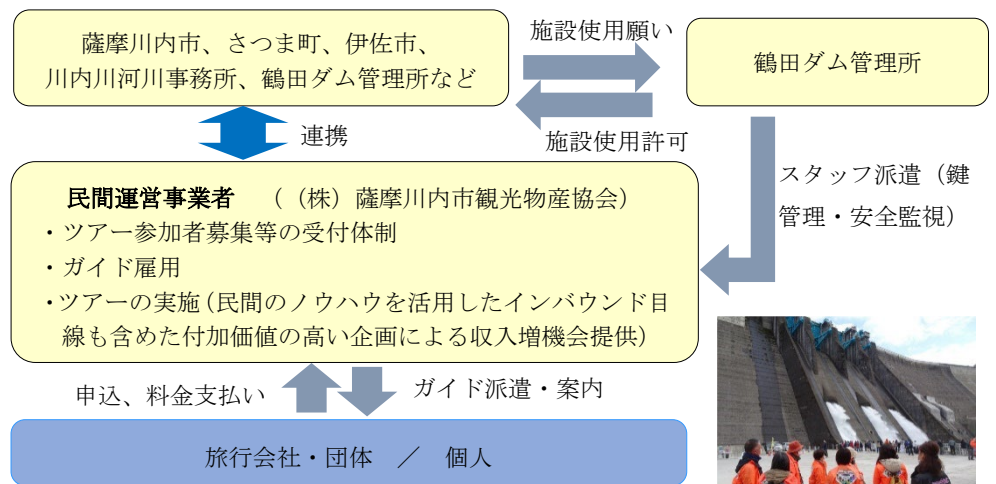
- ・ダム見学ツアーを検討する際、自治体・ダム管理者が協力して、カテゴリー別のコースを設定（来訪者をまず、団体・個人に分類し、さらに見学内容等から細分化）。

団体向け	個人向け
①教育旅行（小中学生：社会科見学・修学旅行）	①近隣温泉施設の宿泊とダム見学をパッケージした特別プログラム
②バリアフリー見学ツアー	②個人客受入ツアー
③旅行会社のツアー受入	③遊覧船の期間限定特別運航
④技術視察（テクニカルビジット）	④点検放流
⑤ダムマニア満足ツアー	⑤水力発電施設見学と組み合わせたダムの利水見学ツアー
⑥焼酎貯蔵記念体験	

〔事業スキーム〕

〔鶴田ダムインフラツアーの運営スキーム〕

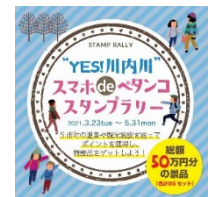
- ・ツアーの企画催行には、旅行業免許が必要なため、薩摩川内市の地域 DMO に依頼。
- ・ダム見学はダム管理所、遊覧船は NPO（運航及びガイド：河川協力団体）が担当している。
- ・ダム見学では、一般開放していない展望所での放流見学（水しぶきあり）。別の広場で特産品販売の仮設店舗販売を実施。
- ・2020（令和2）年度に行ったモニターツアーは、1泊2日で川内川流域の観光スポットと鶴田ダムを巡るコースで、流域内で宿泊。集客圏である鹿児島中央駅発着で49,800円（GO TO トラベル助成後25,900円）で実施。
- ・焼酎貯蔵（鶴田ダムエイジング焼酎プロジェクト）は、ダム管理者、さつま町観光物産協会、さつま町の3者で協定締結により実施。最長20年間保管。100本を貯蔵中（2021（令和3）年12月現在）。



出典：国土交通省鶴田ダム管理所

■地域連携方策

- ・2021（令和3）年、川内川5市町の観光施設や温泉を巡ってポイントを獲得し、ポイントに応じて特産品が抽選で当たる、デジタルスタンプラリーを、かわまちづくり観光振興部会が実施。YES!は、川内川流域の湧水町(Y)、えびの市(E)、さつま町・薩摩川内市(S)、伊佐市(!)。(ただし、ダム見学は含まれていない)



出典：川内川水系かわまちづくり推進協議会

■取り組みの成果

- ・2021（令和3）年は7月の出水やコロナ禍により未実施。現在、再開に向けて、①ダムや地域を案内するガイドの養成や体制づくり、②ダム見学と合わせた地域の宿泊プランづくり、③国、流域市町と協力した、地域活性化に向けたしくみづくり、④ダムを活用した地域活性化の取り組みの継続等を検討中。